貸借対照表

2019年 6月30日 現在

株式会社 アクトプロ (単位: 円)

資 産 の	部	負 債 0	部
科 目	金額	科 目	金額
【流動資産】	2, 390, 778, 913	【流動負債】	527, 699, 563
現金及び預金	1, 860, 894, 793	支払手形・買掛金	44, 618, 918
預け金	308, 524, 900	前 受 収 益 · 前 受 金	8, 203, 598
受取手形・売掛金	134, 587, 790	未払費用・未払金	237, 816, 974
未収収益・未収入金	50, 678, 580	預り金	7, 396, 020
前払費用・前渡金	27, 972, 950	短期借入金	8, 922, 518
その他の流動資産	8, 119, 900	一年内返済長期借入金	133, 330, 000
【固定資産】	451, 206, 883	売上値引引当金	86, 680, 000
【有形固定資産】	272, 199, 603	その他の流動負債	731, 535
建物附属設備	5, 163, 156	【固定負債】	2, 052, 158, 000
車 両 運 搬 具	159, 683	長期借入金	1, 236, 708, 000
工具器具備品	266, 876, 764	預 り 保 証 金	815, 450, 000
【無形固定資産】	62, 512, 240	負債の部合計	2, 579, 857, 563
ソフトウェア	62, 512, 240	純 資 産	の部
【投資その他の資産】	116, 495, 040	【株主資本】	262, 128, 233
投 資 有 価 証 券	12, 935, 000	資 本 金	30, 000, 000
関係会社株式	6,000,000	利 益 剰 余 金	232, 128, 233
差 入 保 証 金	38, 205, 315	その他利益剰余金	232, 128, 233
繰 延 税 金 資 産	46, 624, 594	繰越利益剰余金	232, 128, 233
その他の資産	12, 730, 131	純資産の部合計	262, 128, 233
資産の部合計	2, 841, 985, 796	負債及び純資産合計	2, 841, 985, 796

損益計算書

自 2018年 7月 1日 至 2019年 6月30日

株式会社 アクトプロ (単位: 円)

休式会社 アクトプロ	T	甲位: 円)
科目	金	額
【売上高】		
売 上 高	2, 004, 816, 533	
売 上 高 合 計		2, 004, 816, 533
【売上原価】		
当 期 商 品 仕 入 高	57, 740, 695	
合計	57, 740, 695	
売 上 原 価		57, 740, 695
売 上 総 利 益 金 額		1, 947, 075, 838
【販売費及び一般管理費】		
販売費及び一般管理費合計		1, 923, 933, 263
営 業 利 益 金 額		23, 142, 575
【営業外収益】		
受 取 利 息 ・ 配 当 金	39, 509	
雑 収 入	14, 211, 355	
営業外収益合計		14, 250, 864
【営業外費用】		
支 払 利 息	12, 510, 965	
雑 損 失	1, 613, 513	
営業 外費 用合計		14, 124, 478
経常利益金額		23, 268, 961
【特別損失】		
その他の特別損失	2, 677, 621	
特 別 損 失 合 計		2, 677, 621
税引前当期純利益金額		20, 591, 340
法 人 税 等 調 整 額		4, 504, 682
法人税住民税事業税		-2, 187, 900
当 期 純 利 益 金 額		18, 274, 558

個別注記表

(重要な会計方針に関する注記)

- 1. 資産の評価基準及び評価方法
- (1) 有価証券
 - ① 子会社株式 移動平均法による原価法によっています。
 - ② その他有価証券 時価のないもの 移動平均法による原価法によっています。
- 2. 固定資産の減価償却の方法
 - (1) 有形固定資産
 - ① 1998年4月1日以降に取得した建物 (建物附属設備を除く) 定額法によっています。
 - ② 2016年4月1日以降に取得した建物附属設備並びに構築物 定額法によっています。
 - ③ 賃貸している工具器具備品 賃貸期間にわたる定額法によっています。
 - ④ その他のもの 定率法によっています。
 - (2) 無形固定資産 定額法によっています。
- 3. 引当金の計上基準
 - (1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、各債権について個別に回収可能性を検討し、回収不能見 込額を計上する方法によっています。

(2) 売上値引引当金

各商材について個別に将来値引の可能性を検討し、値引見込額を計上する方法によっています。

- 4. その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項
 - (1) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっています。

(会計方針の変更に関する注記) 該当事項はありません。

(表示方法の変更に関する注記) 該当事項はありません。

(誤謬の訂正に関する注記) 該当事項はありません。

(株主資本等変動計算書に関する注記)当期末における発行済株式の数普通株式 500,000 株

(その他の注記) 該当事項はありません。

以上